



故 中 村 先 生

中村先生を悼む

中 原 イ ネ

本学衛生学教授中村正太郎先生は昭和三十八年四月十三日心臓衰弱でおなくなりになりました。

ここ二、三年来御健康がすぐれられず御案じ申し上げている間にこの訃報に接し御元気御回復を願っておりました我々一同は深い悲しみにおうたれております。ここに食物学会を代表して哀悼の気持を捧げますと共に先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

かえりみますと先生は、大正九年、九州帝国大学医学部に入学され、昭和二年、同大学を卒業、ひきつづき母校の助手、講師を歴任されました。医学研鑽の第一線に御活躍中の先生はその後京都府の衛生関係の行政、特に一般社会の衛生思想の普及向上にその半生を捧げられ、昭和二十二年には衛生部長を最後に、昭和三十年本校教授として迎えられました。

時あたかも本学食物科は栄養士課程発足直後の事で、その教科内容の充実と発展には、故土屋教授と共に全力をつくして熱心に当られました。故土屋教授との名コンビぶりは未だに折にふれて我々にはなつかしく思いおこされて参ります。

しかし昭和三十五年末突然土屋教授が御他界されてから先生には御健康のすぐれないのに加えてそのお力落しがめだって感ぜられましたが、学生の指導にあたられる御努力は最後までかわらず、我々は今更のように先生の御人格をしのばずにはおれません。

食物学教室は多年の労がようやく労いられ、来春には新しい家政館の建築も完成し一層の発展を期待している時に、先生を失いました事は、我々にとっても学生にとっても、非常に残念でなりません。生前の御教訓や御意見を胸に、先生の今までお尽し下さいました御努力に報います事が唯一の霊をおなぐさめする事と一層の精進を励みたいと考えております。